

令和3年度 家庭教育支援プログラム指導者研修④ 実施報告

実施日：令和3年7月19日（月） 塩谷庁舎
令和3年7月20日（火） 小山庁舎

今回は、塩谷庁舎と小山庁舎でそれぞれ実施しました。

【午前の研修】

○ 演習「家庭教育支援プログラムを学ぶ」

総合教育センター職員

既存のプログラムを参加者に合わせてアレンジして使う演習を行いました。受講者は、実践場面を想定し、プログラムのねらいを確認しながら、ワークやふりかえりなどが効果的になるようプログラムを再構成していました。ペアで積極的に意見を出し合い、プログラム再構成の方法を理解しました。



○ 説明・演習「ファシリテーター演習に向けて」

19日) 塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 浜 清美

20日) 下都賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 鈴木 正俊

親学習プログラム「子どものいいところを伸ばそう」をもとに、プログラムを進めるためにどのような工夫が大切なのか、10のポイントについて説明がありました。ファシリテーターとしてプログラムを展開する午後からの演習に向けて、アイスブレイクを利用した導入や一つ一つの発問の工夫、話し合いを活発にするための言葉かけ、受講者を観察しながら進めるプログラム管理、エピソードを使うメリットなど、プログラムを進めていくための重要な要素について学びました。



【午後の研修】

○ グループワーク

「家庭教育支援プログラムファシリテーター演習①」

総合教育センター職員

これまでの研修で学んだことを生かしながら、ねらいに迫るためにプログラムの展開の仕方や内容と時間の配分、役割分担などについてグループで検討しました。効果的にファシリテートできるような言葉かけを考え、一つの活動で複数の効果が出るような導入部の自己紹介やアイスブレイクを工夫していました。教育事務所の担当者からの助言を参考に、班ごとに話し合いを進め、参加者への関わり方などについても考えることができました。また、ワークシートや資料、小道具など必要な準備物についても細部まで話し合いながら、協力してプログラムを作り上げる楽しさを味わいながら熱心に協議していました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・プログラムを作っていく過程の中で、一人では難しいと感じてしまうことも協力者がいれば、成し遂げることができることを学びました。
- ・一つ一つ細かくご説明いただき、活用できるものもあって、とても勉強になりました。
- ・プログラムのアレンジ（実情に合わせて）の大切さを学びました。
- ・ねらいを外さないようにワークを削ったり、流れるようにつないでいったりする言葉を考えることがとても大切だと感じました。
- ・3人で演習プログラムを作り上げる作業が、大変楽しくできました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp